

矯正歯科治療に伴う一般的なリスク・副作用について

- 治療の最初は矯正装置による不快感、痛み等があります。通常は、数日間～1、2週間で慣れることが多いです。
- 歯の動き方には個人差がかなりあります。そのため、予想された治療期間が延長する可能性があります。
- 装置の使用状況や顎間ゴムの使用状況および定期的な通院等、矯正治療には患者さんの協力が非常に重要であり、それらが治療結果や治療期間に大きく影響します。
- 治療中は装置が付いているため、むし歯などのリスクが高まります。自己管理不足により、むし歯になる場合がありますので、丁寧に磨くことや、定期的なメンテナンスが重要です。また、歯が動くことにより隠れていたむし歯が見えるようになることもあります。
- 歯を動かすことにより歯の根っこが吸収して短くなる場合があります。元々、歯冠長が長く、歯槽骨レベルの低い場合などに、歯茎のラインが下がったり、歯と歯の間の歯茎がやせて下がること（ブラックトライアングル）があります。
- ごくまれに歯が骨と癒着して歯が動かないことや、歯を動かすことで歯の血流障害が起こり壊死することがあります。
- 過去にピアス等のアクセサリーを身に付けていた場合、治療途中に金属等のアレルギー症状が出る場合があります。
- 治療中に「顎関節で音が鳴る、あごが痛い、口が開けにくい」などの顎関節症状が一時的に出ることがあります。
- 咬み合わせのバランスを整えるために、歯の形や補綴物の修正を行ったりする可能性があります。
- はずれた矯正装置を誤飲する可能性があります。通常は自然排泄されますが、体調の変化を認めた場合は連絡して下さい。
- 装置を外す際、歯に微小な亀裂が入る可能性やかぶせ物(補綴物)の一部の破損や再作製が必要な可能性があります。
- 歯磨きの状況が悪い場合、装置装着のあとが白い斑点として残ることがあります。
- 装置を外した後、保定装置を指示通り使用しないと通常より後戻りが大きく生じる可能性が高くなります。
- 装置を外した後、新しい咬み合わせに合ったかぶせ物(補綴物)やむし歯の治療(修復物)などを専門の科で再度作製する場合があります。
- あごの成長発育によりかみ合わせや歯並びが変化する可能性があります。
- 様々な問題により、総合診断で予定した治療計画をやむを得ず変更する場合があります。
- 治療後に親知らずの影響で、歯並びに凸凹が生じる可能性があります。加齢や歯周病等により歯を支えている骨がやせるとかみ合わせや歯並びが変化する可能性があります。
- 矯正歯科治療は、一度始めると初診時の状態に戻すことはできません。
- 機能的な問題(舌癖など)が治らない場合、噛み合わせや、歯並びが変化する可能性があります。また、保定終了後5年以上経過した場合の動きは後戻りとは言わず、再治療の対象にはなりません。
- ストレスや装置などにより口内炎等の軟組織の炎症が起こることがあります。

※この記載は今後修正が加えられる可能性があります。